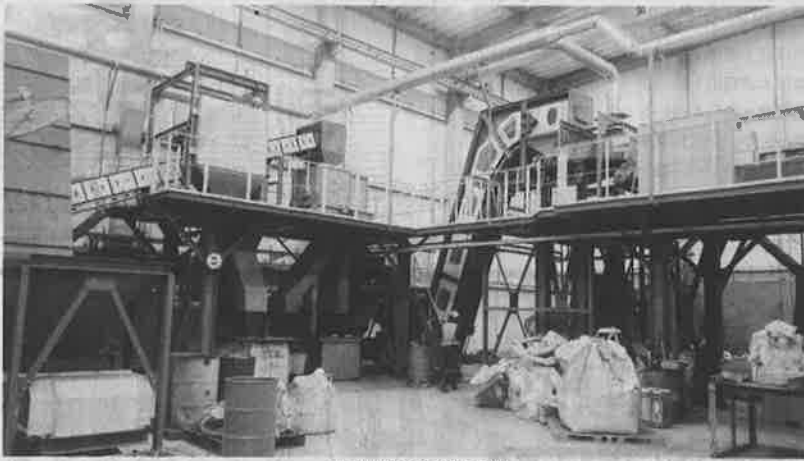


秩父回収資源

収益力強化へ品目拡大

破碎・選別機を導入

非鉄および鉄スクラップを取り扱う秩父回収資源(本社||埼玉県秩父郡皆野町、小澤通利社長)は、回収品目の拡大による収益力強化に取り組み、このほど電線リサイクル工場内に約3億5000万円を投じ、新工場棟と破碎機・選別機を導入した。廃電子機器から金銀滓の回収を開始。銅ナゲットのノウハウを生かし、均等で細かい破碎や不純物を大幅に抑制した分別を行い、ユーザーが使いやすい加工を実現した。強みである回収技術の幅を広げ、収益基盤の強化を図る。



新工場棟の選別機

同社は地元・秩父を拠点に地域密着型の経営を続けて創立107年目を迎えた歴史ある企業。リサイクル業界でもいち早く分析器を導入し、信頼性の高い原料供給を重ねて納入先を拡大してきた。拠点は本社の約3000平方メートルのヤードと、本社近くにある約7000平方メートルの電線リサイクル工場だ。2020年8月、電線リサイクル工場に約600平方メートルの新工場を建設。電線リサイクルをメインに廃電子機器やモーターコアの破碎・選別を行う。

「他社ができないスクラップからでも金属を回収する技術を有する」と胸を張る。回収した銅、アルミや金銀滓は精錬メーカーに納入する。モーターコアの破碎も得意分野だ。鉄スクラップと電線が絡むことなく純度の高い状態で電炉メーカーに原料を供給。ユーザーが使いやすい状態とすることでスクラップに付加価値を与える。金属スクラップは最近、コスト競争力のある中国へ輸出される動きが顕著だ。そのような中、同社は複合物から多くの品目を回収できる体制とし、サービスの高付加価値化やコスト競争力の強化を目指す。小澤常務は「ユーザー目線の高品質なリサイクルを実現し、同業他社に負けないビジネスをしたい」と意気込む。

日経金HD

アナリスト向け 説明会一問一答

日本軽金属ホールディングスが16日に開催したアナリスト向け決算説明会の、経営陣とアナリストの主な一問一答は次の通り。

――自動車減産の影響を。

「足元では、自動車関連の製品は部品メーカーや自動車メーカー、車種などで状況が多少異なる。上期は非常に自動車向けが良かったが、8月以降に自動車減産の影響が出始めた。8-10月に減少した分はまだ回復していない。昨年の下期から急激に回復した後、ひと息ついた状態とも言える」

――「電池材はソフトなラミネートやアルミケース、円筒型タイプなどさまざまな製品があり、品種よって状況が異なる。欧州ではLiB需要が今後数年は続

「自動車メーカーによつては第4四半期に生産台数を回復させる」との話も出ている。当社はそのような強気にはなり切れておらず保守的な収益を予想している。アルミ二次合金は中国の影響も考慮すると、国内の数量は自動車以外も戻ってくる」とみている。

――リチウムイオン電池(LiB)向けの顧客について。

「電池材はソフトなラミネートやアルミケース、円筒型タイプなどさまざまな製品があり、品種よって状況が異なる。欧州ではLiB需要が今後数年は続

「自動車メーカーによつては第4四半期に生産台数を回復させる」との話も出ている。当社はそのような強気にはなり切れておらず保守的な収益を予想している。アルミ二次合金は中国の影響も考慮すると、国内の数量は自動車以外も戻ってくる」とみている。

――リチウムイオン電池(LiB)向けの顧客について。

「電池材はソフトなラミネートやアルミケース、円筒型タイプなどさまざまな製品があり、品種よって状況が異なる。欧州ではLiB需要が今後数年は続

表 予定

K開催

WEKK2021」をオンライン(特設サイト) <https://www.nimswe.ms.go.jp/nimswe> 工業大学栄誉・名誉教授、東京大学名誉教授ら6人が記念講演を行った。

関西スマートエネルギーWEEK

脱炭素技術一堂に



イオン電池を用いた蓄電システム「REVO LZA(レボルサ)」を展示した。同会場では二次電池展(パナソニック、リチウムイオン電池)